

蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系④



Fig.1,2 カンムリカイツブリ



水面に浮かんで水を飲む様子(Fig.2)



Fig.3 ウミアイサ

2 ペアのつがいで行動していた(Fig.3)



Fig.4 カワウ

水中での採食行動のあとは陸上で羽干しをする(Fig.4)



Fig.5 オオバン

潟湖の北側で見られた(Fig.5)



Fig.6 オナガガモ♂



Fig.7 オナガガモ♀



Fig.8 オナガガモの群れ

潟湖内にも七北田川河口にも多くの群れが見られた (Fig.6, 7, 8)

調査日 2025年12月16日 (火) 13:30~15:00

この日は前回(11月)調査では見られなかった複数の水鳥が見られた。群れて行動することが多いカンムリカイツブリ (Fig. 1) だが、この個体は単独で行動していた。水面に浮かび泳ぎながら水を飲んでいる姿が見られた。潟湖内の小さな魚類を食べていると考えられる。ウミアイサ (Fig. 3) はくちばしが細く長いがかモ科のなかまであり、魚を捕えるのに向いた形をしている。カワウ (Fig. 4) は長いと1分以上も潜水して獲物となる魚を捕えて食べる。ウ科のなかまは羽に油分が少なく水をはじかないので、潜水が得意な代わりに採食行動の後は陸上で長い時間羽を乾かす必要がある。潟湖の北側を泳いでいたオオバン (Fig. 5)。植物食傾向の強い雑食で、主に水生植物を食べる。前回 (11月) 調査では潟湖内ではマガモの群れが多数を占めていたが、この日はマガモの姿は見られずオナガガモ (Fig. 6, 7, 8) の群れが多く見られた。食性は雑食で植物の種子や貝類なども食べる。さまざまな食性を持つ多くの野鳥が集まる蒲生干潟の生態系の豊かさを感じることができる。

(伊藤勝彦)